

教員名	三浦 徹 (MIURA Toru)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	文学修士 (1986 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	miura-t@pis.bekkoame.ne.jp

## ◆研究キーワード

都市 / 契約 / ネットワーク / 比較

## ◆主要業績

総数 ( 2 ) 件

- ・書評「森本芳樹『比較史の道: ヨーロッパ中世から広い世界へ』(創文社)』『社会経済史学』72/2、2006/7., pp.115-117
- ・書評「近藤信彰「19世紀テヘランの高利貸」『法制史研究』56、2007/3、pp.285-288

## ◆研究内容

1. アラブ・イスラム都市の社会経済システムの解明のために、文書史料を用いた研究を進めている。近年は、ワクフ(宗教目的の寄進)に焦点をあて、寄進された財産(とくに不動産)が、都市の社会経済基盤を整備し、農民や商人・職人が寄進財となった農地や商店や工房を賃貸借することで経済に参画し、同時に賃貸料収入が宗教施設や社会福祉に環流されるという仕組みを明らかにし、都市の発展と衰退のメカニズムの解明にとりくんでいる。
2. 中東・イスラム社会のメカニズムの解明のため、比較研究に取り組んでいる。「歴史的アーカイブズの多国間比較」の研究プロジェクトに加わり、韓国、中国、西アジア、ヨーロッパの文書比較を通して、社会の比較の方法を探求している。文書資料は、地域や社会の生きた記録であり、地域研究の有力な材料となる。
3. 高校生や大学生の中東・イスラム認識について、高校教員と協力してアンケートなどの調査を行いながら、中東やイスラムの理解のあり方について、実践的な問題提起を行っている。

## ◆教育内容

文教育学部では、比較歴史学とグローバル文化学環で授業を担当している。17年度に新設されたグローバル文化学環では、「グローバル文化学総論2」において、歴史的観点から今日のグローバル化の特徴はどこにあるのかを担当した。「宗教文化論」(イスラムの社会文化論)では、ジェンダーを切り口にイスラム社会を論じた。米国の大学とテレビ会議で結び、ヴェールのついで議論を行った。「地域研究方法論」では、毎回授業の前と後で簡単なレポートを課し、添削して返却した。わずか数ヶ月で、学生の思考力・表現力はみるみる豊かになり、地域を扱う視線が複眼的になったことが確認できた。「東洋史演習」でも和文論文をテキストに「問題提起 lead the discussion」を求めたところ、討論はきわめて活発になった。いずれの授業においても、「双方向性」と体験を重視した。学生による授業評価では、高い満足度が示された。

## ◆共同研究例

---

---

「イスラーム地域研究」プロジェクト（人間文化研究機構）では、（財）東洋文庫を拠点に、次世代の研究の土台となる史料・文献情報のデータベース化と図書館やライブラリアンのネットワークづくりを行っている。

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

---

3年前から、ダマスカスを対象とした「都市研究」の研究書を和文および英文でまとめる予定でいる。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

---

中東は、「西洋」（ヨーロッパ世界）と「東洋」（アジア）の中間に位置し、中東・イスラム世界の歴史を通して、現代世界の成り立ちをさぐることをめざしています。特に、ダマスカスやカイロなど、イスラム世界の都市社会に関心を持ち、都市の空間（ハード）と社会のしくみ（ソフト）の両面から、研究をしています。アラブ諸国に通いだしてはや15年、馬糞のにおいがしたカイロの下町は相変わらずですが、高速道路がモスクのそばを横切るようになりました。湾岸諸国にはドバイなどハイテク高層都市が出現しています。個性というフレーズで他者との違いが強調される今日ですが、人々の暮らし方、社会のあり方には、共通の感覚や知恵があります。最近では、北京やカシュガル、ジャカルタなど、広くイスラム世界の町をめぐる、比較史に熱をいれています。